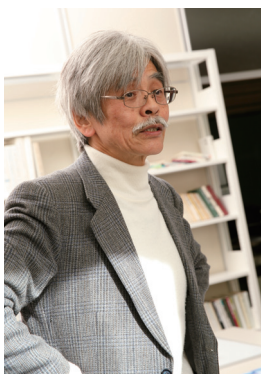


実践から身につける 心理学の基礎

まず、自分で行動する。そこから広がる学問への探究心

スタート地点の1年生だからこそ
基礎となる
考え方をここで体得する

佐々木 心理学とは、誰も覗くことのできない人の「こころ」を、科学的な測定に基づいて解明していく学問です。その研究方法は実験やデータ収集、統計など多岐にわたるため、学生は机の上で知識を



佐々木隆之教授

詰め込むだけでなく、自分の手を動かして学ぶスキルが求められます。

感情心理学やパーソナリティ心理学、スポーツ心理学や音楽心理学など様々な専門分野がありますが、学習のスタートラインにいる1年生の皆さんにとって最も重要なのは、特定の知識を得ることよりも、多彩な「実践」を通して心理学的な考え方を身につけることです。

私の専門は音楽の知覚認知心理学ですがこちらのゼミでは、認知心理学でよく扱われる「錯覚」、中でも錯視現象を取り上げ、目から入った様々な情報がどのように処理され、私たちの行動や心の動きにつながっているのかを体験的に学びました。



心理行動科学科

佐々木 隆之教授

〔1年実践セミナーの皆さん〕

井上わか菜さん、上野瑠慈さん、
金野有沙さん、佐々木ユリ香さん、
佐藤麻奈津さん、三浦万知さん、
森杏奈さん、山形真輝さん

三浦 入学当初は、目や耳の錯覚が心理学に関係しているとは思いませんでした。けれども、授業で勉強したり、自分で調べていくうちに、多くの心理学者が錯覚をテーマに研究していることを知って、興味を持ちました。

金野 私は、ゼミの活動を通じて錯覚の

面白さを実感しました。また、パソコン操作の経験も、将来に生かせるのではないかと思います。

佐々木 本や資料を読み込んで発表するスタイルのゼミと違い、パソコンでパターンを作ったり、出力したものを切ったり、貼ったり、手作業中心の活動を行ってきました。はじめは何のための作業なのかかわからないという人も多かったかもしれませんが、この1年間で印象に残った活動を振り返ってみましょう。

目の錯覚がおきる不思議な絵本に子どもたちは興味深々

佐々木 本ゼミの具体的な活動として、皆さんは数名のグループまたは個人に分かれ、目の錯覚を利用した作品を作りました。いろいろと苦労した点や工夫した点があったのではないですか。

森 私たちは、絵本「さくらんぼのかくれんぼ」づくりに挑戦しました。さくらんぼ

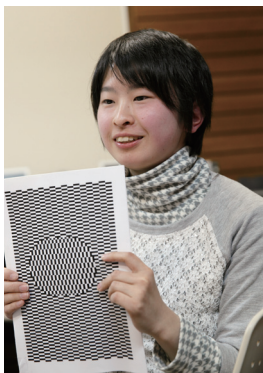
の兄弟を主人公に、2つの同じ絵が背景を変えることで違う大きさに見えたり、色が変わって見えたりする仕掛け絵本です。子どもが好むカラフルな色使いと錯覚を同じ紙面で表現しなければいけない点がとても大変で、作っては直し、作っては直しを何度も繰り返しました。

佐藤 読み手の反応を考えながら、みなでアイデアを出し合い、チームワークで作りました。パワーポイントを使いこなすのに苦労しましたが、楽しかったです。

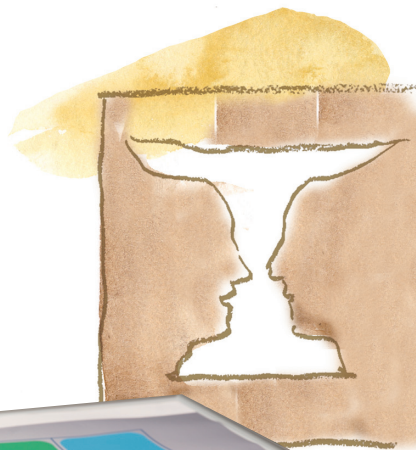
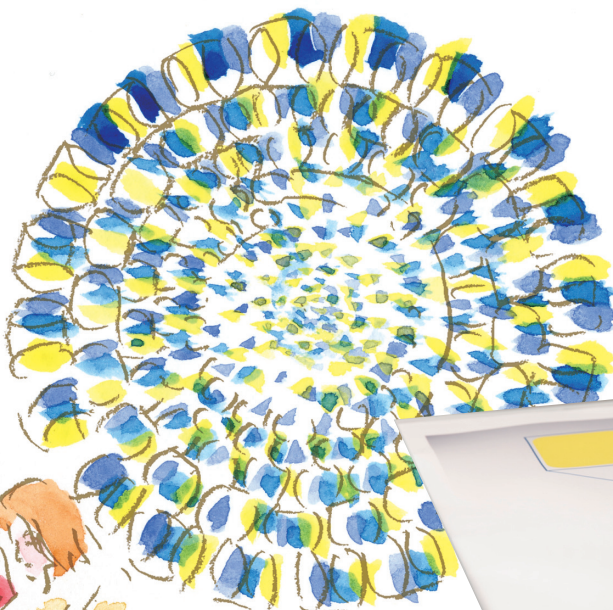
佐々木(ユ) 頭で思い描いたものを形にすることは、想像以上に難しかったですね。はじめにストーリーを固めてしまうと錯覚を組み込むのが難しくなり、逆に「この錯覚が面白いから使おう」と先に決めてしまうと、ストーリーとして成立しないという具合です。悩んだ末、最終的にはグループの4人それぞれが1ページずつ担当して作成し、それらを何とかうまくつなげて完成させました。



森杏奈さん



山形真輝さん



三浦 幼稚園の子どもたちにお披露目した時は、本当に楽しんでもらえるのか心配でした。ナレーションをクイズ形式にするなど、工夫を凝らし、無事発表することができました。

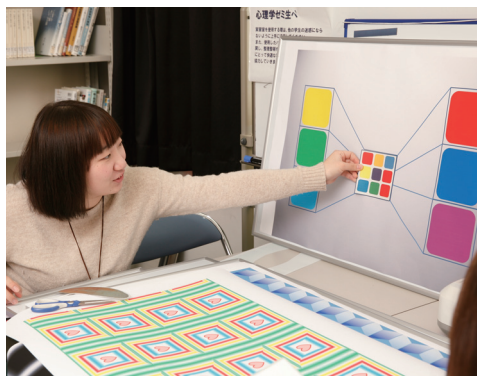
佐々木 子どもにも錯覚が起こるのか、発表前は不安でした。でも、園児の皆

さんはとても楽しそうな様子でした。苦
労した甲斐あって、予想以上の成果に
ながつたのだと思います。

**作品完成まで何度も試してはやり直し
その努力が今後の学びの礎に**

佐々木 絵本の他にも、目や物を見る仕
組みを利用して、創造性豊かな作品をつ
くってみました。

上野 私たちは、ルービックキューブをモチ



ーフに「色彩の錯視」を作りました。本来
同じ色なのに、周りの色と干渉し合っ
て違う色、明るさに見えるというものです。

井上 パソコンの画面上できれいに見えて
も、出力すると色が変わってしまい、その
修正が大変でした。パソコンと出力紙を見
比べながら、1色1色微妙な調整を重
ね、どうにか完成させた時は本当に安心
しました。私はパソコンが苦手で自分にで
きるかどうか心配でしたが、大分使いこな
せるようになったので嬉しいです。

上野 ゼミの活動を通して、あれこれと
試行錯誤を重ね、納得できるものを作る
力が身についたように思います。

金野 私は「ホローフェイス」という、実際
はへこんだ顔が、光の当て方によって通常
の出っ張った顔に見える錯視を担当しま
した。アニメのキャラクターのお面をへこま
せた状態で作り、どの位置からライトを
当てれば効果的か検討を重ねました。

ません。作品をその場で動かして色を比べ
て見せるなど、足を運んでくださった方へ
の説明の仕方を工夫しました。

井上 初めて心理学的なものに触れる
方も多く、説明して「すごい」と感想を
言われた時は、作品が出来上がった時と
また違った達成感を味わいました。

森 幼稚園での発表は、園児みんながス
トーリーに参加しながら、それぞれの錯
覚にしっかりとアクションをとってくれま
した。園の先生からお褒めの言葉をい
ただいて、嬉しかったですね。

佐々木 広く一般の方へ発表することは、
学生としてのみならず、社会で活躍する
ために必要なプレゼンテーション力の向
上にもつながります。

また、こうしたプロセスを経て、自分が
学んでいることを改めて認識し、今後進
むべき方向性を考えるきっかけにもなっ
たのではないのでしょうか。

佐藤 私は、人と人との関わりの中で生

山形 私は、静止画なのに動いて見える
「動く錯視」を、パソコンのエクセルを使っ
て作りました。作品の性質上グループでは
なく単独作業だったため、迷った時は先
生に相談し、アドバイスをいただきました。
エクセルは未経験だったので、慣れるまで
大変でしたが、面白い作品に仕上がって
満足です。

佐々木 一つのことを完成させるまで試
行錯誤した経験は、今後の研究や卒論
など、大学生活のあらゆる場面で必ず役
に立つと思いますよ。

**発表の場で磨くプレゼンテーションカ
ラが楽しみもぐんと広がる**

佐々木 皆さんの作品は、大学祭やオー
ブンキャンパス、ヨロサイヨロ2013など
において「視覚イリュージョン」と題した展
示・発表を行いました。また、現在ではゼミ
活動の集大成として、学外での展示・発



佐々木ユリ香さん



三浦万知さん

まれる感情を学びたくてこちらの学科へ
進みました。ゼミの活動を通して、脳や目
が間違っ見える錯覚と、人の感情はどち
らも無意識のうちに生まれるという共通
点に気づき、そういう意味で心理学の
様々な学びは根底でつながっているんだ
と感じました。



金野有沙さん



佐藤麻奈津さん

表に向けた準備を進めています。

自分の活動成果の発表、これもゼミが
目指す実践の一つです。発表を通して得
たものは多いと思いますが、いかがですか。

上野 どんなに素晴らしい作品も、ただ
展示しているだけでは関心を持ってもらえ

佐々木(ユ) まずは自分で動いてみよ
う、という意識が身に付きました。パソコン

を使ったり、自分でもものを作ったり、通常
の授業とは違った体験ができたことで、心
理学という学問の奥深さを知ったととも
に、これから学びたいと思う分野が増え
ました。

山形 普段の生活ではなかなか気づかな
いけれど、心理学で扱うのはとても身近
にある物事だということが分かりました。
勉強すべきことはまだまだたくさんあつて、大
切なのはむしろこれから。残り3年間、多
くのことを吸収したいですね。

佐々木 1年次から実践的なゼミで学べ
ることは、本学科ならではの強みであり
大きな魅力です。

2年次以降の学習は、より専門的で
難度も高くなりますが、ここで培った自ら
行動する力、そして心理学的な考え方
を存分に発揮し、実りあるものにしてほ
しいと思います。

